

## 「相手に対する配慮」ができること

朝の会が終わり、一時間目の授業が始まるまでの時間は、教室移動や授業の準備で生徒たちは大忙しです。今朝のその時間に、二人の三年生が校長室に順番にやってきました。D・T君とT・Mさんです。

「昼休みに、T高校とE高の見学会に行ってきた報告に来たいと思います。D・T君」

「一時間目の授業が終わったなら、高校見学会の報告に来てもらいたいですか。」

(T・Mさん)

二人とも、高校見学の報告に来たのではなく、報告に来てもよいかどうか、つまり、私の都合を尋ねに来たのです。これは予想外でした。しかし、とてもうれしいことでした。こういうことを優先してできるようになることが、大人に近づいたという証です。

高校見学会に参加したら、報告に行かなければならないことを生徒たちは知っています。だから、自分たちが自由になる昼休みを選んで、生徒たちは報告にやってきました。生徒の立場から考えると、それが今までのやり方です。

しかし、実際はその通りにならないことがあります。私が突如の来客や電話の対応などをする必要があるからです。重要書類に目を通していてもあります。いきなり校長室に来られなくても対応できない時があるのです。

今回の二人の生徒の行った行動は、社会で生きる上でとても大切なスキルです。自分の目的を果たすために、相手の都合を事前に知っておくこと。それを二人の生徒は実行したのです。大人顔負けの姿だと私は感心しました。

ノックをして、中から返事があるうがなろうが扉を開けて扉付近で用件を言い、すかさずかと入ってくる生徒もいます。それはこれまでの習慣で身に付けた幼い入り方であって、「ノックの意味」や「相手に対する配慮」が十分理解できていないからやってしまうことです。それを理解し、実践できるようにすることが、中学校の役割だと言えるでしょう。

もう一つ素晴らしいと思ったことがあります。それはT・Mさんの発想と行動力です。

彼女は、忙しい業間（授業と授業の間の十分間）に報告をしようと考えました。確かに、移動や準備をしなければいけないのが業間の時間です。しかし、報告の時間を見出すことは決して不可能ではありません。自分なりに考えて行動できたことは「主体性」そのものだ。私は感心しました。

彼女は短時間で見事に報告を済ませました。昼休みがきつとのんびりと過ごす時間になったことでしょう。